

## クッチャロ湖を訪ねて

八 木 ト ミ

3年前、福島県鏡石で開催された全国研修会に初めて参加し、秋田県十文字、青森県むつ湾浅所研修会に出席して、ハクチョウの生態に関する研究や自然環境保護等、専門的分野で活躍されている会員の皆様と接することができたのを機に、全国のハクチョウ渡来地を訪ねてみたいと思っておりました。とくに春4月、北帰行のハクチョウが何万羽も集まるといわれる北の湖クッチャロ湖を、今年こそ訪れたいと願っていたのですが、時季が遅れ6月9日、写真機材を満載した新車で主人とともに11日間の北海道旅行となりました。

雄大な自然とクマガラの営巣、シマフクロウの鳴き声に感動し、原野の花を満喫して、浜頓別には13日午後到着、出迎えてくださった山内昇氏に案内していただきました。

ベニヤ原生花園は花の季節には多小早かったけどそれなりに観賞でき、野鳥も多くキマユツメナガセキレイの美しさは賞賛に価する。牧草が繁茂して自然が壊われ、赤い花の咲く草をと、育苗したエゾカンゾウを明日移植するとのこと、自然保護にも力を入れていることが伺えました。

クッチャロ湖では準備していった長靴に覆き替え湿地に入る。フワフワしていてなにか不思議な感触です。体を振って得意気に踏みしめる山内氏の笑顔は、無邪気な童顔そのものです。アイヌ人が「愛する人に捧げれば、何時かは二人は結ばれる」と唄った恋の花クロユリが一面に咲いていました。

白鳥の給餌場は湖岸も整備され、丸太造りの観察小屋が建てられ、サイロの給餌塔にはおそれいりました。ど肝を抜いたのは山内氏自ら奔走して集めた3本の巨大な自然木の案内板、ひょうひょうとした北国の大自然を象徴するかのようにそびえ立ち、実に芸術的な趣さえ感じられる。手造りのハクチョウも自筆の文字もとても素晴らしい。クッチャロ湖は対岸も見えない位大きな湖ですがシーズンには湖面がハクチョウでうめつくされるとか。ダンプ30台以上の砂で作った休場も今は20羽位休めるほどの小さな砂山になっていました。ハクチョウが消化を助けるために飲み込む砂がそんなに沢山必要だとは……。今年は暖冬で内地に向うハクチョウも留まり、公園の芝草の根まで食べられたこと、餌不足の苦勞話もお聞きしました。記念にいただいた写真にびっくり仰天、湖面をうめつくしたハクチョウの数のものすごいこと、まるで白いジュタンを一面に敷きつめたようです。私はいつの日か必ず、天空を舞う渡去の瞬時を自分の目で確かめようと思いました。

来年はラムサール条約会議が釧路で開催されるので、クッチャロ湖の湿原もぜひ見に来ていただきたいと意欲を話していただきました。

